

1 題材名 使う人の気持ちを心豊かにする食器づくり

2 本題材の目標

- (1) 形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解する。笠間焼きの用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。(知識及び技能)
- (2) 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練る。身の回りにある食器の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく目的や機能などを考え、表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 技 笠間焼きの用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	発 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練っている。 鑑 身の回りにある食器の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく作品や身近な食器などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、オープン陶土で豆皿を制作する際に、授業外の学習を関連させることで、美術の働きについて考える資質・能力を育むことを重視した題材である。鑑賞活動では、食器の目的、機能や、形、色彩、材料などの造形要素に着目し、実際に豆皿に触れて鑑賞することで、機能性と調和のとれた美しさを感じ取れるようにする。表現活動では、形や色彩がどのように人の気持ちを心豊かにするのかに着目して表すことで、美術の働きについて考えられるようにする。作品完成後は、つくった豆皿に食品を盛り付けた写真を鑑賞したり、家族などに使ってもらった感想を聞いたりすることで、造形要素の働きが使う人の気持ちをどのように心豊かにしたのかについて考えを深める。豆皿の制作や鑑賞を通して、美術の働きについて考えることができる題材として設定した。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、美術の学習活動に楽しく取り組むことはできている。しかし、意識調査の結果では、「美術で学んだことが将来役に立つと思いますか」という問いに対して「思わない」と答えた生徒が過半数であった。アンケートの記述を分析すると、美術の授業で学んだことの意義を実感できるまでには至らず、美術の働きがどのように生活を美しく豊かにしているのかを考えることにはつながってはいないことがわかった。

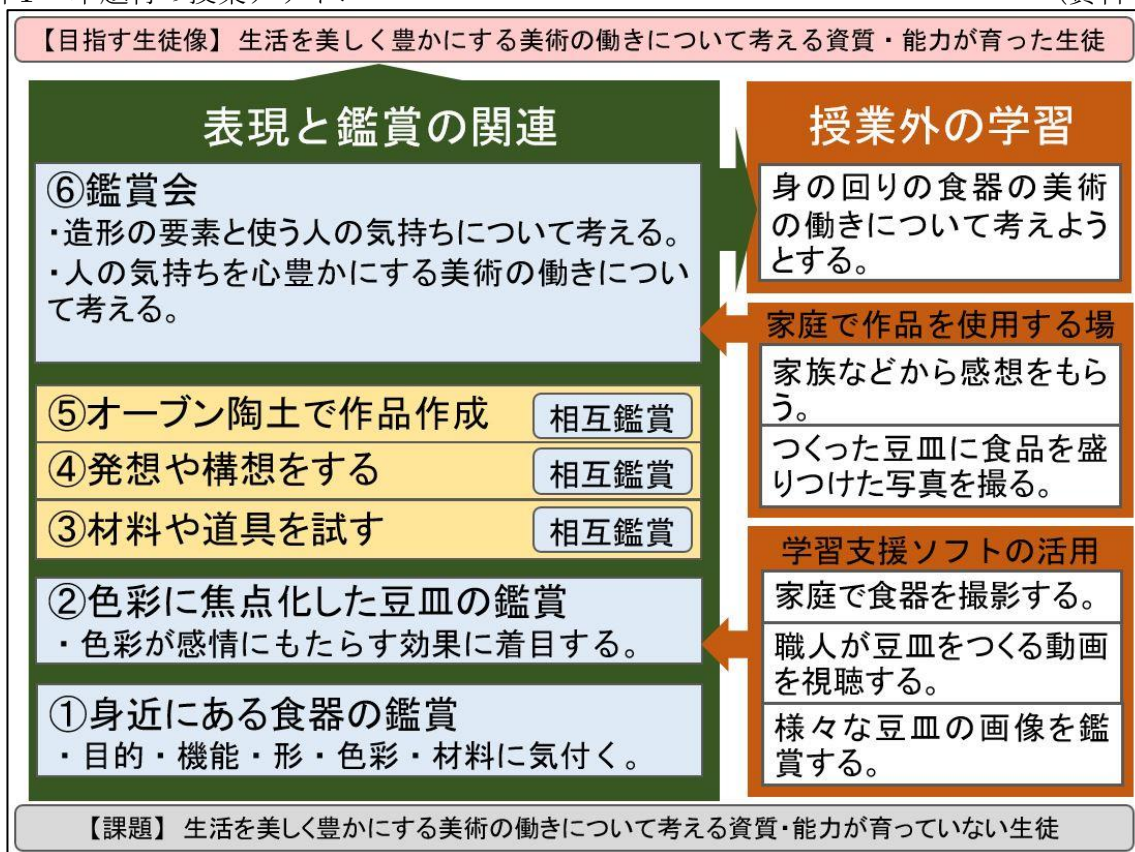
(3) 指導観

本題材では、授業外の学習との関連を図りながら、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考える資質・能力を育む授業デザインを構築する。表現と鑑賞の関連を図り、目的や機能と形や色彩・材料に関する考えを軸にしながら授業を展開していく。授業外の学習の時間では、学習支援ソフトを活用して笠間焼の職人が豆皿をつくる動画をいつでも見られるようにし、技

能について個に応じて学べるようにする。また、自宅にある食器の画像を撮影し鑑賞することで、目的や機能にはどのようなものがあるか、形や色彩がどのように使う人の心を豊かにしていくかなどの視点を深められるようにする。作品完成後には、家族などに使ってもらった感想を聞くことで、美術の働きについて実感できるようにする。このように、授業外の学習を関連させる授業デザインにすることで、造形要素が人の気持ちを心豊かにするという美術の働きについて考える資質・能力が育つと考える。

資料 1 本題材の授業デザイン

(資料 1)



5 学習の計画と評価（8時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	身近にある食器には、どのような目的や機能、形、色彩があるだろう。 ・食器を鑑賞し、目的、機能、形、色彩について班で話し合う。 食器は目的や機能に合わせて、形や色彩などの造形要素が工夫されている。			○鑑	鑑：目的や機能と、調和のとれた美しさなどを感じ取っているかを見取り、できていない生徒にはどのような食品を載せるとよいか対話し考えを深められるようにする。【ワークシート】 態鑑：楽しく食器の鑑賞の学習活動に取り組もうとしているかを見取り、できていない生徒には造形要素への気づきを促す声かけをする。【活動の様子】
	2	豆皿の色彩と人の気持ちには、どのような関係があるだろう。 ・笠間焼の色彩に着目して鑑賞する。 色彩には人の気持ちにもたらす効果がある。		○知		知：色彩が感情にもたらす効果を理解しているかを見取り、できていない生徒には、実物を触って鑑賞できるようにする。【活動の様子】 態鑑：楽しく鑑賞に取り組もうとしているかを見取り、できていない生徒には、使う人を自分に置き換えて考えるよう声掛けを行う。【活動の様子】
授業外		◆家庭で食器を写真に撮り、鑑賞する。 ◆学習支援ソフトで多様な豆皿を鑑賞する。				

2	3	意図に応じて表すには、どのような工夫が必要だろう。 ・粘土で試行錯誤し、技法を身に付ける。 意図に応じて表すために、粘土や用具の生かし方を身に付けることが大切である。	○技		技: 用具の生かし方などを身に付けて表しているかを見取り、できていない生徒には、動画を見返して表現技法を再確認できるようにする。【活動の様子、作品、ワークシート】 ○ 態表: 楽しく表現活動に取り組もうとしているかを見取り、できていない生徒には、試していない技法を紹介する。【活動の様子】
	4	どのようにつくれば、機能と美しさが調和した豆皿になるだろう。 ・ワークシートにアイデアスケッチを行う。 使う目的や使う人の気持ち、材料などから主題を生み出す。		○発	発: 目的や条件などを基に使用する者の気持ちなどから主題を生み出し、機能と美しさなどとの調和を考え構想を練っているかを見取り、できていない生徒には、家族などの好みを聞き出し発想できるようにする。【ワークシート】 ○ 態表: 楽しく表現活動に取り組もうとしているかを見取り、できていない生徒には、具体的な場面を想像するよう声掛けをする。【活動の様子】
	5・6	どのような形の豆皿にすれば、人の気持ちを心豊かにすることができるだろう。 ・オープン陶土で豆皿の形をつくる。 目的、機能や、形、色彩、材料などに着目することが大切である。	○技		技: 意図に応じて工夫して表しているかを見取り、できていない生徒には、教師が手本を示すなどしてイメージしたものを具現化できるように支援を行う。【活動の様子、作品】
	7	どのような色彩の豆皿にすれば、人の気持ちを心豊かにすることができるだろう。 ・アクリル絵の具で彩色し、釉薬を塗る 色彩が感情にもたらす効果を考えてつくるのが大切である。	○知 ◎技	◎	知: 色彩が感情にもたらす効果を理解しているかを見取り、できていない生徒には、前時のワークシートを見返し、相手を想像しながら着色するよう助言する。【活動の様子、作品】 技: 【活動の様子、作品】 態表: 【活動の様子】
授業外		◆作品に食品を盛りつけ、写真に撮る。 ◆使った人から感想を聞く。 ◆感想を聞いて感じたことをワークシートに記述する。			
3	8	目標: 生活を美しく豊かにする美術の働きについて考える。 1 豆皿を使用した写真を相互鑑賞する。 形や色彩と人の気持ちには、どのような関係があるだろう ・豆皿に食品を載せたことで、目的や機能形、色彩、材料について気付いたことを発表する。 ・友人の写真を鑑賞し、自分にはない見方や感じ方を味わう。 2 家族などが豆皿を使った感想を班で発表し合う。 ・家族などの感想から、造形要素の働きがどのように人の気持ちを心豊かにしたかについて話し合う。 ・友人の発表を聞いて、自分にはない見方や感じ方を味わう。 3 様々な食器にある美術の働きについて考える。 4 まとめと振り返り 形や色彩、材料などの造形の要素が、人の気持ちを心豊かにすることが美術の働きである。		○鑑	鑑: 食器の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げているかを見取り、考えを深められない生徒には、家族の反応やその時の状況を思い出させる。【活動の様子、ワークシート】 ◎ 態鑑: 【活動の様子】
授業外			◎	◎	知・技: 【ワークシート、作品】 発・鑑: 【作品、ワークシート】